

<今回>287回目 2020年12月4日(金)15時~18時 603号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p262、渡海作戦 より

<前回>286回目(20-11-23)出席者 9名

資料(20-11-23-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 11月になって、コロナ禍はよりひどくなってきた。冬の寒さは来たばかりだというのに。危険と感じたら無理に参加しなくてもよい。この15階は久しぶりに利用する。

C 読書 p245 酒匂筆跡の探究 から

1)昭和41年発行の「対支回顧録下」の中に旧島津藩士嘉永3年15日、日向国都城に生まれを頼りに戸籍を求め九州に縁故を訪ね経めぐった。堤甫さんの家の奥さんの春子さんが酒匂家の遺族とわかった。その家の仏壇の上に酒匂景信大尉の写真、眼前の大きな木箱に「銅花瓶」と太い文字。これが自筆であった。

2)史学会では謎の人であるかのように云われていた酒匂景信はここでは遺族の日常生活の中で生きていた。宮内庁所蔵の「由来記」(明治写本)の筆跡と同じであった。春子さんの話を聞いた中味は明治天皇(宮内庁)に酒匂本を献上している(受領文書がある)。その解説として「高句麗古碑考(横井忠直作)と「碑文の由来記」(酒匂景信作)と合綴したものを付したものである。古碑考も4割は酒匂筆跡、6割は細字のきれいな別人。

3)その時の逸話を孫の白川千鶴子さん(宮崎県小林市在住)から聞いた。明治天皇が酒匂に褒美をやらないといけませんが金だとすぐ飲んでしまうから金はやらないぞと言って下賜されたのが「銅花瓶」で家宝となった。

4)当時酒匂家の嫁だった春子さんはもし火事にでもなったら、何をおいても第一にこれを背負って避難する訓練をさせられたという。下賜された桐の箱にさらに大きな木の外箱を作り、その表に「銅花瓶」裏に下賜された年月日(明治21年12月3日)と自署名を記入した。

5)白昼夢 出土記と由来記を比較してみたが両作者は実質的な連絡はしていない。共同謀議は白昼夢だった。

6)玄室の実測 將軍墳内部の状況が明治17年という当時(縄文式土器は明治12年、弥生式土器は明治17年(実際には明治29年)酒匂の玄室内実測が如何に先進的なものか。その素養は明治12年8月参謀本部はリビングストンの「亜非利加内地紹介」一冊を購入(大日記会計簿)、西欧近代的知識を学び、幼時藩校(造士館)で漢学の素養を身につけ、蒲生君平の「山陵志」にみられるような考古学的素養も考え得る。

7)二・碑文解説と倭の歴史 浅き者の妄説 日本側の学者まで酒匂犯行説に加担し始めていたから、真相を徹底的に突き止めようとした。「倭以辛卯年来渡海破百残 以為臣民」の箇所を端的な例に朝鮮側の学者が従来の日本の解釈に異を唱え始めていた。臣民論 日本側の学者は「倭国が百済などを臣民とした」と読んでいた。これを浅き者の妄説と批判した。鄭寅晋、朴持享、金錫享など。

8) 碑面は南面が第一、1部は鄒牟王の神話的初代から17代の好太王の死後2年目に石碑を立て、第2部は好太王の勲績を記し、第2面は永樂5年から8項目の勲績、最後第3部は墓守の制(その由来と掟)を記している。

9)親征の王者 王躬率(親征)と教遣(武將の派遣)と明確に区分して書かれている時代のものである。

次回日程 2020-12-18(金) 14時から18時 602会議室

2021-1-8(金) 15時から18時 306 会議室  
-1-25日(月) 15時から18時 1503号室